

2022年 3 月

## 2021 年度教材作成プロジェクト中間報告書

JPCOAR 研究データ作業部会 教材作成プロジェクト

### 活動の概要

#### フィードバックの検討

2021 年度以降の活動案として、以下の 4 つが挙げられた。

1. 教材フィードバック  
研究者のための教材を学認 LMS で公開して得たフィードバックの検討
2. RDM 講座コミュニティ形成  
RDM 教材普及に向けた学認 LMS の RDM 講座コミュニティの形成
3. RDM 教材作成  
国内で求められる実践的な内容の教材作成(第 6 期基本計画の要請からシラバス検討)  
【参考】[内閣府国際的動向を踏まえたオープンサイエンスの推進に関する検討会](#)
4. 教材に対応するメタデータ付与  
RDM 支援標準スキルとの対応づけ

このうち今年度は、主に 1. 教材フィードバックの一環として、教材作成プロジェクトチームのメンバー内で実際に学認 LMS の研究データ管理教材を受講し、フィードバックを検討・修正することを主な活動とした。

#### 作業対象

[学認 LMS](#) で公開されている以下の教材を受講し、「教材の元となったスライド」および「確認テスト」の修正を行った。

- [「研究データ管理サービスの設計と実践」第 2 版](#)
- [「研究者のための研究データマネジメント」](#)

#### 作業の手順

1. 教材作成プロジェクトチームのメンバーおよびメンバーの所属機関内の担当者等が受講を行う。
2. 受講を通してのフィードバックの内容を以下のように分類する

参考:(参考)学認 RDM 搭載教材へのフィードバックおよび検討結果.xlsx

- 修正
  - 対応可:技術的に対応可能で実装にあたって検討等があまり必要ないもの
  - 要確認:実際の教材等を確認したうえで修正を行うもの
  - 要検討:修正するかどうかも含めて検討を行う必要があるもの
- 担当
  - GLMS:主に学認 LMS プラットフォーム内で対応するもの
  - 教材チーム:教材の内容に関わるもの

3. フィードバックの内容のうち、対象コースおよび章が明確であり担当が教材チームであるものを今回の修正作業の対象とし、修正作業を行う。

#### フィードバックの内容および修正作業の結果

フィードバックの内容およびそれに対する修正作業の結果については“学認 RDM 搭載教材へのフィードバックおよび検討結果.xlsx”を参照。

#### そのほかの活動

##### RDM 講座コミュニティ形成

RDM 講座コミュニティ形成に関することとして、教材フィードバックの作業を通して自身が所属する機関で教材を普及させるための素案を検討し、以下のような意見が挙げられた。

- 所属部署で公開している研究情報ページに掲載する
- 機関リポジトリの業務等で研究データに関する問い合わせがあつてときに、併せて紹介する
- 学内の RDM 関係のワーキンググループの共通認識をもつためという名目のもと、トップダウンでの受講を促す
- 学認 LMS 上で受講するよりも、LTI 連携で自機関のシステムで受講できるようにした方が、受講への抵抗感がなくなるのではないか
- 情報リテラシー教育活動の一環として行う

##### 教材に対応するメタデータ付与

教材のフィードバック作業の一環として、RDM 支援標準スキルと既存の教材の対応関係を整理した。内容については、“RDM 標準スキルと既存教材の対応表.xlsx”を参照。

「(分析)」とあるシートが整理の結果が記載されているシートである。

## 既存教材の管理方法の検討

既存の研究データ管理教材は JPCOAR の Web サイト(weko3)上で公開をしている。しかし、WEKO3 の仕様上、同一のランディングページに複数ファイルが紐づいた形になっており、ファイル別のバージョン管理ができない。これにより、以下のような問題が生じ得る。

- 更新の都度全てのファイルバージョンが上がってしまい、特定のファイルがいつ更新されたのか、以前のファイルとどこが変わったのか、といった情報が不明瞭
- 更新されなかったファイルがある場合、同じコンテンツに対して複数の fulltextURL が存在することになり、機械可読性の観点から妥当ではない
- 上記のような問題から、ある程度の期間を定めてまとめて更新せざるを得ず、フィードバック反映の即時性等に影響が出てしまう恐れがある

そのため、今後はファイル別のバージョン管理が可能である GitHub を用いて公開・バージョン管理を行っていく方針とした。

なお、JPCOAR の Web サイト上でも引き続き教材の公開は行うが、修正の都度更新を行っていくのではなく、ある程度大きな修正を行った際に更新を行っていく。

## メンバー・活動スケジュール

### メンバー

1. 小林 裕太 千葉大学附属図書館 利用支援企画課利用支援企画グループ【チーフ】
2. 三上 絢子 北海道大学附属図書館 研究支援課研究支援企画担当
3. 田中 幸恵 名古屋大学附属図書館 東山地区図書課 東地区図書統括グループ 係長
4. 西蘭 由依 鹿児島大学学術情報部情報サービス課桜ヶ丘分館情報サービス係長
5. 古川 雅子 国立情報学研究所情報社会相関研究系 助教 / オープンサイエンス基盤研究センター
6. 尾城 孝一 国立情報学研究所オープンサイエンス基盤研究センター特任研究員【オブザーバー】
7. 南山 泰之 国立情報学研究所オープンサイエンス基盤研究センター 特任技術専門員
8. 末田 真樹子 国立情報学研究所学術基盤推進部学術コンテンツ課係員(研究データ基盤整備チーム)
9. 松野 渉 国立情報学研究所学術基盤推進部学術コンテンツ課係員(研究データ基盤整備チーム)

### 活動スケジュール

- |         |  |
|---------|--|
| 2021.8  | 第1回教材作成チームミーティング                               |
| 2021.9～ | チームメンバーおよびチームメンバーが依頼した各機関の担当方が学認 LMS 上の教材を受講する |
| 2021.10 | 第2回教材作成チームミーティング、教材受講のフィードバックを共有               |
| 2021.11 | 第3回教材作成チームミーティング、修正作業の方針決定                     |

2021.12 既存教材の修正作業

～

2022.1 第4回教材作成チームミーティング、各メンバーの修正案の検討

<中間報告公開資料>

1. JPCOAR 研究データ作業部会 教材作成プロジェクト 2021 年度教材作成プロジェクト  
中間報告書（本資料）
2. 学認 RDM 搭載教材へのフィードバックおよび検討結果
3. RDM 標準スキルと既存教材の対応表.xlsx